

北海道教育委員会教育長 様

北海道札幌西高等学校長 相馬利幸

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> 1 働き方改革の推進 2 生徒の資質・能力の伸長を図る学習活動の充実 3 魅力ある学校づくり 4 体系的な教育活動の推進

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年進路の主担当者や担任の業務過多が見られた。 ・ 進路指導のDX化を進めることができた。更なる、DX化を推進する。 ・ 授業改善については、一定の成果が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員アンケートにあったが、多忙な方と、そうではない方がいるので、協働体制を敷いて業務の平準化に取り組む必要があると感じた。改善の方策にある取組を継続してもらえればと思う。 ・ 時間外在校勤務時間は昨年度より若干の増加があるが、改善傾向にあり、持続して推進にあたっていただければと思う。 ・ 学年・分掌間の情報共有やDX化が着実に進み、組織としての改善が図られている点は大きな成果である、一方で、特定の教員への業務集中が依然として見られるため、業務の見える化と分担の再構築が求められる。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各業務を見直し、時期によっては進路指導に時間を割けるような協働体制の構築や資料の提示方法の変更を検討する。 ・ 次年度の講習の申込みをデジタル化する。模試、講習代金の口座引き落とし方法や手順、保護者への周知等について一層の効率的方法を検討する。全学年の模試の解答解説を紙からデジタルへの移行を検討する。 ・ 研究テーマを年度当初に掲げ、その重点テーマで年間を通して取り組むことを検討する。研究テーマを意識して授業が行われるよう研修方法についても考える。 	
生徒の資質・能力の伸長を図る学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン授業の実施により、進路変更者を減らすことができた。 ・ ICTの活用については、昨年度より改善傾向が見られる。 ・ 65分授業については、概ね好意的な評価が得られた。5コマになったことによる負担軽減、演習と解説が1コマで完結できるなど理解を深めさせることができた。 ・ 学習に前向きに取り組みを生徒と共有できず、学習意欲を下げる言動に対する指 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 65分授業が定着し、主体的・対話的で深い学びの実現がなされていることは良かった。 ・ 65分授業やICTの活用により、学習活動の質が向上してしている点は評価できる。受動的な学習を減らし、ICTを活かした主体的な学びの設計をさらに工夫することが課題と思われる。

	<p>導をうまくできなかった。</p>	
<p>改善方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教務の履修時間に関する規定の変更を今後検討していく。 ・DX ハイスクール関係予算を有効活用し、ICT の更なる推進に努める。 ・受動的な授業では効果がでにくいので、各教科で ICT の有効活用など工夫する必要がある。 ・様々な取組を積極的に発信して、その取組に熱心に活動する生徒を大いに評価する雰囲気醸成し、学力向上に努める。 	
<p>魅力ある学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安易な欠席や遅刻がないよう指導できた。 ・保護者との情報共有については、懇談会（年2回）、進路研修会（年2回）、面談（年1～2回）実施でき有益であった。 ・情報発信の部分で、昨年より厳しい評価が見られた。 ・PTA 等との連携については、高い評価が得られた。 ・気持ちが落ち込みがちな生徒に対する指導に苦慮した。 ・いじめアンケートの業務について、はっきりしない部分もあった。 ・いじめ防止委員会兼生徒支援会議について、「いじめ」と「支援」の業務が混在していた。 ・SNS 等のトラブルの未然防止が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA、後援会と密に連携することができた。感謝する。そのために業務過多になっている部分があれば、継続して見直していく必要がある。 ・PTA や学校団体等との連携は、西高の風土にあっていて良いと思う。 ・いじめの問題は、小中学校で増加しており、高校でも若干危惧しているので、引き続き適切な対応をお願いしたい。 ・PTA や支援団体との連携が良好で、学校運営の大きな支えとなっている。情報発信の満足度に差がある点は課題であり、SNS 等を活用した多様な発信手法の工夫が必要である。 ・法令遵守の取組は概ね適切と思われる。
<p>改善方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や保護者、様々な機関と連携を密にし、引き続き支援を行っていく。 ・保護者面談等の重要性は認識している。学年団で業務を共有して、持続可能なものになるよう協働体制を構築していく。 ・ホームページだけでなく、SNS の note を活用するなど、より積極的な情報発信に努める。 ・PTA との良好な関係が持続できるよう、活動についての見直しを随時行っていく。 ・研修や支援委員会での議論が必要である。行政も含めた外部との連携も引き続き実施していく。 ・いじめアンケート業務の流れの明確化と適正化を図るために、集計や情報共有の流れを明確にする。 ・それぞれの役割と機能にあわせて、各会議を開催し、生徒の支援にあたる。 ・啓発動画を活用し、情報リテラシーの向上を図る。 	
<p>体系的な教育活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動の取組状況をもっと外部に発信することができないか。 ・授業、探究活動、行事、部活動をしっかりやるのが協調性や社会性を育成することにつながっている。 ・北海道大学研究室訪問については、一定の評価が得られている。 ・学校推薦型選抜・総合型選抜の利用が増えてきており、その併願等に関する申し合わせ事項が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習に疑問を持っている生徒がいるようなので、目的や意義というものを継続的に生徒へインプットしてあげる取組が必要だと感じた。 ・良くやっている。特に問題はない。 ・探究活動が生徒の協調性・社会性の育成に寄与しており、学校祭での「探究ブース」など外部への発信も効果的だと思われる。 ・大学との連携によるキャリア教育は進路意識の向上に大きく貢献していると思われる。

改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校祭において、「探究ブース」のようなものを設置することを生徒指導部で検討。 ・資質能力を向上させるために、主体性、協調性、社会性、探究への取組を深める教育課程の編成を検討する必要がある。 ・進路指導部内の役割分担の在り方、大学との連絡・連携の取り方について引き続き検討していく。また、訪問により、学習意欲や進路意識がどのようにしたら高まるのか検討していく。 ・次年度初めには、新3学年の生徒、保護者に示すことができるよう検討する。指導については、マンパワーに頼るのではなく、チームで取り組む。
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学校 Web ページで公表する。

- 3 添付資料
- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 令和7年度学校関係者評価 (3) 令和7年度保護者アンケート | <ul style="list-style-type: none"> (2) 令和7年度教員アンケート (4) 令和7年度生徒アンケート |
|---|--|